## 安行小の環境学習・活動の紹介

### カブトムシを育てよう　菊次　哲也

「カブトムシをつかまえた」

「カリンの木をゆすったらカブトムシが落ちてきた」

　安行小では夏になると、子どもたちがこんな声をかけてくれます。朝の登校中、あるいは校庭でカブトムシをつかまえることのできる学校は川口でも珍しいでしょう。

　安行小ではカブトムシ飼育も行っています。それも一箇所ではありません。グランドの体育小屋横のカブトムシ飼育箱、理科室の飼育箱、そして落ち葉だめです。

　安行小にはたくさんの樹木があるので、秋になると大量の落ち葉が出ます。毎日、落ち葉の掃除をする校務員さんの仕事は大変です。そこで、落ち葉のでるそれぞれの場所に落ち葉だめを作ることにしました。昨年、新しい学童校舎が出来ましたが、その工事で使い終わった杭をたくさんもらいました。その杭を使って、板で囲んで、落ち葉だめを作りました。校庭の旧ヤギ小屋と昇降口前です。すでに大量の落ち葉がたまっています。落ち葉はケヤキの木の葉っぱがほとんどです。ケヤキの落ち葉はカブトムシの幼虫は大好きですので、今年の夏には飛んできたカブトムシがたくさんの卵を産みつけることでしょう。

　一年生教室横の中庭には一昨年、小さな落ち葉だめを作っておきました。

小さく目立たない落ち葉だめです。子どもたちもほとんどの子が知らないでしょう。一月、子どもたちと理科の時間に落ち葉だめを調べてみました。子どもたちもカブトムシの幼虫がいるとは期待してはいないようでした。しかし、落ち葉をどかしていくと、次々とカブト虫の幼虫が見つかりました。あんな小さな落ち葉だめに、まるまる太った大きなカブトムシの幼虫が何と十七匹もいました。

　来年の夏、再来年の夏、落ち葉だめの近くを通る子たちが、どんな声をあげるのか楽しみにしています。